THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUBS

THE Y'S MEN'S CLUB OF
OSAKA NAKANOSHIMA
Y'S WOMEN

大阪なかのしまワイズウィメンズクラブ

"To acknowledge the duty that accompanies every right"
「強い義務感をもとう、義務はすべての権利に伴う」

C/O OSAKA YMCA, 1-5-6, Tosabori, Nishi-ku, Osaka 550-0012 Japan

MOTTOES (2020-2021)
国際会長主題：“VALUES,EXTENSION and LEADERSHIP”「価値観、エクステンション、リーダーシップ」
アジア会長主題：“Make a difference”「変化をもたらそう」
西日本区理事主題：“Let's do it now!” 「2022 に向け誇りを持って All is well」
中西部部長主題：「ワイズの力を信じて、自ら行動しよう」
クラブ会長主題：「一隅を照らす」

Monthly Bulletin
第 292 号
2021 年 5 月

聖書のことば
あなたがたは地の塩である。・・・
あなたがたは世の光である。・・・
マタイによる福音書５章 13 - 16 節
選者　和田 早苗

５月例会プログラム

日時：2021 年５月 15 or 22 日（土）
14：00～16：00
場所：大阪 YMCA 103,104 号室

司会　藤好　基子

1. 開会点鐘　桑原　頼子会長
2. ワイズソング：奏楽のみ
3. 聖句朗読　和田　早苗
4. ゲスト、ビジター紹介　桑原　頼子会長
5. 連絡・報告・ニュース
6. 「次年度についての話し合い」　保田圭子次期会長
7. お誕生祝い：奏楽のみ
8. ニコニコ献金　ドライバー
9. クラブ事務協議
10. YMCA の歌：奏楽のみ
11. 閉会点鐘　桑原　頼子会長

例会当番（C）　受付当番（B）

４　月　統　計

例会中止につき、計測不能

こんなお話しするつもりでした・・
聴きたい聴きたいと思っていた古谷担当主事のお話。
やっとここに披露させて頂きます。

自分との戦い - マラソンを通じて -

古谷　佳之

このタイトルだけ見ると､｢どれだけストイックな人間なのだろう!?｣と思われる方もいるかも知れませんが、全くそういうレベルの話ではありませんので、予めお伝えしておきます。

40 歳を過ぎてから始めたマラソン。まだ７年ほどしか続けていませんが、何となくこのスポーツの魅力には取りつかれています。

改めて｢私がなぜマラソンの魅力に取りつかれているのか｣を考えた場合、健康維持のためといったような一般的な理由とは別に、大きな理由があることが分かりました。

それは、｢自分との闘いを楽しんでいる｣という点です。

好きでやっているにも関わらず、例えば秋ごろになると、｢今日は寒いから走るのをやめよう｣とか｢今日は風が強いから走るのをやめよう｣という気持ちが出てきます。夏になると｢暑いから止めておこう｣とかサボることを正当化するための理由を探そうとする自分が出現します。でも、｢いや、このままだと大会で走り切れないから練習せねば｣という、もう一人の自分が現れます。

何となく、自分の中でこのやり取りを楽しんでいる、ということがわかってきました。

これは、走り出してからも同じです。例えば今日の走行距離目標を 10 ㎞とします。でも､｢ちょっと膝に違和感があるから途中でやめようか｣という自分や、一方では｢いや、それは走らないための言い訳でしょ｣という自分が現れ、やり取りを始めます。

サボった自分が勝った場合は、結局後で反省し、逆に、その日の目標をクリアした場合は自分を褒めます。

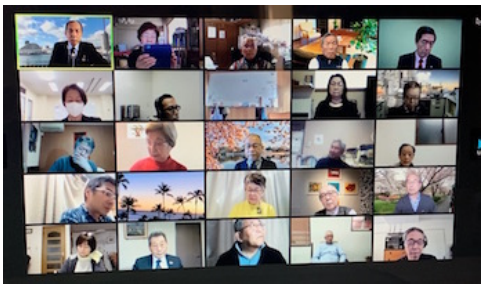
こんな、自分という人間の中で起こっている闘いをどうやら楽しんでいるようです。

「西日本区フォーラム」に参加して

武井　和子

「さあ、今、会いましょう！」をキャチフレーズに 2021 年３月 27 日（土）午後３時から Zoom ミーティングが開催されました。前日にパソコンを購入した業者の担当者に調整をおねがいして臨みましたが、私のパソコンにはマイク・カメラがついていない。今回は話をする人以外ビデオ･マイク停止で参加できるシステムなので参加しました。パソコン画面に私の名前が登録され提示されました。126 名参加してフォーラム第１部が始まりました。

中部・びわこ部・京都部・阪和部の報告があり、中西部は吉田由美中西部部長の力強い言葉で報告されました。頼もしいなかのしまクラブの仲間です。　ブレイクタイムを挟んで六甲部、瀬戸山陰部、西中国部、鹿児島からの報告があり、質疑応答アピールタイム､「新生ワイズ起こしの歌」を全員で歌い第１部は終了。２時間の会議をただ見ているだけなのに非常に疲れた。何故かしら？



第２部は７時からスタートです、参加することに迷いましたが、グループ別でトークをしますからスマホで参加しました。司会の京都トウービークラブ小幡さんに呼ばれて、ビデオ・マイクの停止を外して自己紹介！藤好 CS 主任、杉浦さんが映り少し安心して、次のグループへ・・・・「ハワイから参加」の阪和部中井信一部長や京都トウービークラブ洪水さんと交流しました。Zoom 会議も悪くないなあと思い始めたら終了です。あっという間の１時間でしたが疲れました。

リモートより直接お会いしてお話するのがやっぱりいいなあ！

＊＊

他クラブ訪問記
大阪センテニアルクラブ

保田　圭子

4/10、大阪,兵庫のコロナ感染者数の急増により、なかのしまの例会が休会になった日、同じ YMCA の 10 階チャペルでセンテニアルクラブの例会がありました。広島から来られる長尾ひろみさんが卓話者なのでなかのしまの方も是非！と、お誘いがあったのですが例会日が同じなので無理だと思っていましたが、なかのしまが休会になり、杉浦さんが車で行くからと言ってくださったので思い切って行ってみました。

会場はハイブリッドで、会場参加が 16 人、zoom 参加者が６人ということでした。長尾さんは古いお知り合いで懐かしく、広島女学院大学の学長をしておられる、という消息はうかがっていましたのでお会いするのを楽しみにしていました。今回の長尾さんはなんと瀬戸内海の島に新しい教育を目指して学校を始めたというお話でした。中教審の委員もされ、センター試験の改革にも取り組まれる中、YMCA の青少年教育の手法、つまりキリスト教のおしえに基づく全人教育を具現化しようと「志塾」を立ち上げたと・・・・。

私も自分の子どもの学校を考える時、幼稚園の子どもの保育方針を考える時、上からの詰め込み教育ではなく、自分で考える力を育てたい、正解は一つではない、という教育をめざしたいと思っていました。でも子どもが大きくなり、仕事を離れてちょっと忘れかけていた理念です。長尾さんは確か、私より一つ年下・・わーすごい！コロナでぐーたら暮らしに慣れてしまった私…。もう少ししっかり生きなければ・・。そんな反省もさせてくださった、長尾さんのお話でした。

ジャム作り奮闘記 ③

杉浦　眞喜子

ジャム作り用には、比較的大きなお鍋が２個（一つは武井さんのですが）ありますが、いつもその２つのお鍋をフルに、時に２回づつ使ったりしてジャムを炊きあげます。

そんな風に炊きあげがったものを全部もっと大きなお鍋に集めて混ぜ､重さを量りながら１瓶づつ詰めていきます。これも結構クライマックス！「それ多すぎる！」「もうちょっと足して！」､「わー、周りがベタベタになった！」とか、とにかくワイワイ言いながら詰め､軽くフタをして、蒸し器に。最初 15 分、一旦取り出してフタを硬く閉め､再び蒸し器に入れて 15 分、煮沸滅菌します。

蒸し器から取り出し、涼しいところに置いておくと、その内、ピン、ピンと音がします。冷めて瓶内が陰圧になって、フタの真ん中が凹む音です。手伝って下さった方達が帰られて、一段落したところで、このピン、ピンという音を聞くのが、私は好きです。

後日、ラベルを貼ったり、かわいい布でフタに帽子をかぶせたりして完成！　出来上がったジャムを並べ、なかのしまのみんなは買ってくださるかしら？これでいくらになるかな？と。ジャム作りは､最初から最後まで私にとっては、本当に楽しいお仕事です。

（お終い）

私がワイズを知った時　【11】

杉浦 眞喜子

私は、教会へは行っていましたが、YMCA についてはほとんど知りませんでした。母が（勿論戦前の）YWCA の専門学校出だったので、YWCA については、よく聞いていましたので、「Y」と言えば YWCA のことと思っていましたし、YMCA は男の人の集まり、私には関係ないものと長く思っていました。ましてや「ワイズメンズクラブ」なんて、全く耳にしたこともありませんでした。

そんな私を、ワイズメンズクラブに誘って下さったのは、故鈴木謙介さんでした。1982 年から 83 年にかけて 1 年あまりポスドク（博士研究員）としてカナダに行っていた私を、謙介さんは「英語堪能」と勘違いされたようで、85 年に大阪センテニアルクラブへの入会を勧めてくださったのです。センテニアルクラブはその頃チャーター3 年目でしたが、もともと英語堪能な方々が多く、「例会を英語で・・」と言っていたとか？ワイズソングを英語で歌うのも、そのような理由からだったようです。　全く英語堪能でない私は、謙介さんの期待には添えなかったのですが、前述のようにカナダから帰ってきたばかりで、何かこれまでの「大学、教会一辺倒の生活」から少し余裕のある生活をと思っていましたので、今までとは全く違う世界にちょっと魅力を感じて、入会を決めました。

「ワイズメンズクラブ」という名前も、私の周りでは全くなじみのないもので、電話で両親に話した時、父は「Wise Men’s・・」（賢人会）と思い込み、おかしなトンチンカンな会話になったことを今も思い出します。

入会してもそんなに熱心なメンバーではない私でしたが、謙介さん初めセンテニアルのおじさまたちは、とっても親切に私をワイズにのめり込ませてくださいました。気が付いたら、伴侶を得たり、新クラブのチャーターに関わったりするまでに・・。私の半生から「ワイズメンズクラブ」は切り離せないものになってしまっていました。

次期クラブキャビネット決定

会長：保田　圭子　　副会長：藤井　弥生
書記：和田　早苗　杉浦 眞喜子
会計：藤井　弥生

= お知らせ=

◎ 元メンバー 平松恒子さんからブリテン郵送料として現金を，また BF 使用済み切手をお送り頂きました。感謝です。

私が行った国際大会、アジア大会
第 70 回国際大会（スタヴァンゲル）

生雲　文枝

2012 年８月、私たちは関空からノルウェー国際大会に飛び立ちました。ルフトハンザ航空でフランクフルトを経由してノルウェーのスタヴァンゲルへ、なかのしまクラブからの参加は杉浦さん、吉岡さんと私の３名です。ノルウェーに近づくと眼下には切り立った断崖が広がっています。初めて海外の国際大会に参加する私はワクワク。

国際大会の１日目はオープニングセレモニーから始まり、国際会長主催の晩餐会で終わりましたが、この大会で感じたことはノルウェーでは女性の社会進出が顕著だということ。スタヴァンゲルの市長はミスターと司会が間違って紹介しましたが、女性でした。また後日、洞窟でのパーティで挨拶をされたのも女性の市長でした。大会が始まる前に会場の避難経路などを説明するアナウンスが流れたことも流石、先進国。

ノルウェー大会での優れた取り組みは沢山あるのですが、１番感激したのはホームビジットといって各国のメンバー、６名ずつがご家庭に食事に招待されたことでした。ご主人手作りの暖炉とローソクがともされ、ノルウェーサーモンの料理をご馳走になりました。デザートもおいしかったです。

国際大会は４日間で終了。それからはノルウェーの沿岸をフッティルーティンという沿岸急行船で巡りました。クルージングのメンバーはなかのしまの３名に加え、センテニアルの山田さん、吉本元理事ご夫妻、神戸西クラブの加茂さん、奈良クラブの高橋さんの８名でした。訪れたトロンハイムのリングヴェ音楽博物館では中世から現代に至るまでの楽器を美しい青年が演奏してくれました。スヴァルティーセンで氷河体験をしたり、最北端岬ノールカップで記念撮影をしたり、深い森の中では金髪の可愛い少女がイチゴを売っていて、まるでおとぎ話。コロナ禍の今,この頃の思い出は宝物のようです。ノルウェーは北欧の福祉国家として有名ですが、自然の美しい素晴らしい国だと思いました。

〈ニコニコメッセージ〉　― ４月 ―

☆ マンションの公園で冬に植えたチューリップが可愛い花を咲かせています。紅白の花桃も綺麗です。今年は沢山の花が咲いて、花の前で家族写真を撮られる方もいます。手入れをしている者にとっては嬉しいことです。（生雲）

☆ 年をとると用心深くなるのか臆病になったのか？いや2月末から起こっていた急性股関節狭窄症で痛みが進み、外出を控えていたためだろうか？あまり外出していない。「思い切って手術をして、もう一度歩いて行きたいところへ行けたらいいのでは？」との主治医の一言に股関節の人工置換手術をすることに決心した。歩けるようになれると信じつつも、また例会を欠席をしなければならないのは淋しい。今も1ヶ月1度の会合が出来ない。淋しさもう少し辛抱していきたいと心に誓う毎日です。（今井）

☆ 家の近くの桜並木の桜もおわりました。次花はハナミズキが続きます。春の花に励まされて自分も花を咲かせたいです。歓喜の花をたくさんね。（江見）

☆ コロナによって引きこもり生活が続きます。私は独り居はけっこう好きなので本をよんだり、ワインをつれにお気に入りのビデオを見たりで退屈はしてません。家事もできるようになって見た目は普通です。今は私は戦力外です。ドクターからは完治はしない、病気と共生して生きて下さいといわれています。でも、今くらいの元気が続けば多少の働きはできるつもりです。私にできることでクラブに役に立ちたいし、それが自分の元気の素になるだろうと思っています。それにしてもコロナが収束しなければ！（國友）

☆ 冬物衣料を片付けた後、必ず寒くなる。分かっているのに毎年早々と片付ける。お花見後やはり朝が寒く、セーターを引っ張り出す。また洗濯をせねばならない。今年も同じことを繰り返してしまう。皆さん、憶えがあるでしょう。（桑原）

☆ 先日ご近所の方が「これ貰って！」と掘り立ての筍２本持って来て下さいました。「私一人だし・・，こんな大きなのを茹でるお鍋ない・・」と言って中ぐらいのを１本だけ頂き、それでも我が家最大のお鍋ではみ出るほど。茹でて、半分を保田さんに貰って頂き、残りを全部若竹煮に、穂先の柔らかい皮は若竹汁に、まだ残った皮を刻んでシラス干しと炒めてきんぴら風に。柔らかくて、山田がいれば「うん，うまい！」って言ってくれるだろうと思いつつ、３日間筍三昧でした。（杉浦）

☆ コロナ禍だからといって家に籠っておられません。週３日は美帆のお供（運転手）でアトリエゆうハウスへ。私もさおり織をします（これはボランティアです）。夕方帰宅もうクタクタです。月曜日はわたしの安息日ですが、必ず雑用があり外出します（会社の仕事もあり）。水曜日は教会の集会のためにあけていますが（現在休会）。土曜日は孫のお相手。日曜日は教会へ・・・・・1週間の始まりです。時々夜に孫から呼び出しがあり、慌てて運転し息子の家へ。（武井）

☆ 保田圭子さん！　次期会長さんのお仕事頑張ってね。（武井美帆）

☆ こんな時期だからこそイロイロ悩むのではなくできるだけ笑顔を心がけています。今、テレビやニュース、ネットを見ても嫌な情報が目に入ることが多すぎるなと感じるので、１日10分だけでも全ての情報をシャットダウンする時間を作っています。（鳥居）

☆ 手話講座、昨年８月から１２月迄土曜日16回受けました。全然覚えられず、いつも前に呼ばれ、させられ恥をかいていました。今年１月から３月コロナのため中止となりました。４月17日今日からまた始まりました。予習はしていなかったのですが、なぜか少し分かってきたのか、楽しかったです。（藤井）

☆ 令和3年、3月30日に私が長男を産んだ東京・広尾にある日赤医療センターで孫（可愛い女の子）が誕生いたしました。嬉しいニュースがない日々の中で、本当に嬉しい孫娘の誕生です。最初の孫たち（双子）の時は、小さくて「無事に育つか」と心配ばかりでしたが、今回は＜赤ちゃんって、こんなに愛おしいんだ＞と長男を出産した時を思い出しています。幸せを運んでくれた長男夫妻と新しい命に感謝しています。（藤好）

☆ ４月、学校は新学期を迎えました。市中のコロナ感染者は着々と増えているし、入国制限が継続されていて新入生は入国出来ていないし、なかなか厳しいスタートを切っています。担当業務では判断に悩むことも多く、ふと「きっと眉間にしわが寄っていたのではないか」と思い返して反省することがあります。こんな時こそ、「ニコニコ」していないとチームの雰囲気も悪くなるでしょうから、毎朝鏡を見て「ニコニコ」の練習をしてから出勤しようと思います。（古谷）

☆ ４月から社会福祉事業部の担当です。久しぶりの事業部にワクワクと心おどらせています。保育園、シニア事業、高齢者事業を渡り歩いていますが、大半はサンホームにいます。ぜひ覗きに来てください！（山佐）

☆ 先日、久々に阪急電車に乗ってお出かけしました。沿線には緑の若葉がいっぱい。住宅街のお庭にはハナミズキや藤の花が咲き、ポットにはパンジー、つつじの花もちらほら咲いてほんとにきれい。あー春だねぇ、と楽しい気分でした。でも、その後友人と食事した時も電車に乗った時も後ろめたいし、どこかでうつっていたらどうしよう、そしてテレビニュースを見て感染者数の多さにが～ん！　ニコニコだけで済まない辛さです。（保田）

☆ またまたコロナの為に例会が持てませんでした。日々感染者の数字が増加して、びっくりする毎日です。外出はスーパーへ日々の買い物か、近くの公園を散歩だけで、何時になったら例会でみんなと逢えるでしょうかね？（吉岡）

☆ 先月から、俳句のグループに参加しています。3月に提出し、手直しして頂いた2首は「東風に触れ　マスク外して　口角上げ」「駒訪ね　花びら踏みゆく　光前寺」。2首目は、保田さんの卓話「おばあさんの民話・早太郎伝説」のお寺を、平成と令和が交代する日に訪ねた思い出を読みました。もう一度、駒ケ根まで足を延ばせる日を待ち望んでいます。（吉田）

☆ 一か月たつのが速いなぁ。何してたのかなぁ。思いだす事もないなぁ。あるある、なかのしまクラブ来期の相談に、会長宅へお邪魔したわ。降り立つことのない駅に少し早く着き、目を引くブティックがあって西脇市の織物作家Nime Tamaki さんという作家のパンツとスカーフを衝動買いしたわ。（和田）

◇5 月お誕生日の方◇　*Happy Birthday*
杉浦　眞喜子　８日

編　集　後　記

３ 度目の緊急事態宣言が出てしまいました。昨年の今頃，こんなに長くこの状態が続くとは思っていませんでしたね。でも必ず「夜は明ける」ことを信じて今を工夫しつつ過ごしていきましょう。